



2020年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2019年8月5日

上場会社名 日本ラッド株式会社
 コード番号 4736 URL <https://www.nippon-rad.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 大塚 隆一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画室長 (氏名) 土山 剛
 四半期報告書提出予定日 2019年8月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-5574-7800

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の業績(2019年4月1日～2019年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	654	9.5	55		54		55	
2019年3月期第1四半期	597		77		75		77	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	10.42	
2019年3月期第1四半期	15.52	

(注) 当社は、2018年3月期第1四半期は四半期財務諸表を作成していないため、2019年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第1四半期	4,271	2,589	60.6	489.83
2019年3月期	4,461	2,670	59.8	504.97

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 2,589百万円 2019年3月期 2,669百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		5.00	5.00
2020年3月期					
2020年3月期(予想)		0.00		5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,600	7.8	100	34.3	105	29.6	78	130.6	14.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期1Q	5,355,390 株	2019年3月期	5,355,390 株
期末自己株式数	2020年3月期1Q	69,556 株	2019年3月期	69,556 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期1Q	5,285,834 株	2019年3月期1Q	4,998,888 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社としてお約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、米中の貿易摩擦と海外景気の先行きが不透明なこともあり、今後世界的な株安やリスク回避による円高が進むといった懸念がありますが、国内において失業率は低水準が続いており、家計を取り巻く環境も良好であることから、個人消費も緩やかな回復基調で推移しました。今後、海外を起点とした景気の下振れリスクや消費税増税の影響が顕在化しなければ、景気は徐々に持ち直していくことが期待される状況であります。

当社の属する情報サービス産業界においては、政府が発表した「世界最先端デジタル国家」の創造に向けたIT戦略において、行政サービス、市町村を含む地方公共団体、民間産業分野でのICTを活用したデジタル化をIoT（モノのインターネット化）、AI（人工知能）、クラウドコンピューティング、ブロックチェーン等の技術基盤で整備することにより、地域の活性化、企業活動の高度化、生産性の向上に向けた取り組みが始まっております。また、企業においては、人手不足の深刻化と働き方改革を背景に省力化・合理化を積極的に行う傾向にあり、ソフトウェア投資が拡大していくことが予測されます。

このような状況の中、当社は、AIやIoT開発において業務提携や販売提携を積極展開することで市場シェアの拡大を目指し、ノウハウの集積、業務効率向上、お客様への新しいソリューションの提案活動等に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は、6億54百万円（前年同期比9.5%増）となりました。利益面につきましては、営業損失55百万円（前年同期は77百万円の損失）、経常損失54百万円（前年同期は75百万円の損失）、四半期純損失55百万円（前年同期は77百万円の損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

「エンタープライズソリューション事業」

各業種向けの派遣常駐型システム開発及び受託請負型システム開発案件において、展開する全てのエリアで受注状況は横ばいではありますが、技術者の稼働状況が引き続き高い状況であります。また、「kintone(キントーン)」(サイボウズ株式会社が提供するビジネスアプリ作成クラウド)による基幹システムの売上也順調に伸びております。さらに、BIツール関連商品につきましても売上高を積上げたことにより、売上高は4億26百万円（前年同期比3.4%増）となりました。

「IoTインテグレーション事業」

昨年度、Advantech Co., Ltd.と業務提携したことにより、当社が展開するIoTプラットフォーム「Konekti®(コネクティブ)」と、同社が展開するWISE-PaaS及びSRP(Solution Ready Platform)ソリューションを用いて、インダストリアル(製造業)分野へ注力し、売上也順調に伸びており、プライベートセミナーの開催やイベントへの出展を行い、その成果も出はじめております。また、医療機関向け自動再来受付システムや医療費自動精算システムの改元対応による受注増等により、売上高は2億28百万円（前年同期比23.3%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は38億41百万円となり、前事業年度末に比べ2億26百万円減少いたしました。これは主に売掛金が3億15百万円減少し、仕掛品が73百万円増加したことによるものです。固定資産は4億29百万円となり、前事業年度末に比べ36百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が34百万円増加したこと等によるものです。

この結果、総資産は42億71百万円となり、前事業年度末に比べ1億90百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は5億90百万円となり、前事業年度末に比べ65百万円減少いたしました。これは主に買掛金が53百万円、賞与引当金が43百万円減少しましたが、その他流動負債が65百万円増加したことによるものです。固定負債は10億90百万円となり、前事業年度末に比べ44百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が40百万円減少し、退職給付引当金が3百万円減少したこと等によるものです。

この結果、負債合計は16億81百万円となり、前事業年度末に比べ1億9百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は25億89百万円となり、前事業年度末に比べ80百万円減少いたしました。これは主に四半期純損失の計上および配当金の支払いによる利益剰余金の減少81百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は60.6%（前事業年度末は59.8%）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第1四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して27百万円増加し、32億77百万円となりました。

当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1億39百万円（前年同期比38.4%減）となりました。これは主に売上債権の減少による収入3億15百万円、たな卸資産の増加による支出75百万円、仕入債務の減少による支出53百万円、税引前四半期純損失52百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用された資金は、44百万円（前年同期比583.6%増）となりました。これは主に業務提携先の転換社債型新株予約権付社債の取得による支出32百万円、有形固定資産の取得による支出4百万円、無形固定資産の取得による支出4百万円、名古屋事業所の移転にともなう差入保証金差入による支出4百万円および回収による収入1百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用された資金は、66百万円（前年同期は10億39百万円の獲得）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出42百万円、配当金の支払いによる支出24百万円によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本資料の公表時点において、2019年5月13日の決算短信で発表しました通期業績予想に変更はありません。

本資料に記載されている業績見通し等将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,250,850	3,277,934
売掛金	698,505	383,179
製品	1,430	1,430
仕掛品	32,075	105,506
原材料	7,996	9,582
その他	78,055	64,281
貸倒引当金	△279	△154
流動資産合計	4,068,633	3,841,761
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	9,550	10,934
車両運搬具（純額）	5,604	5,124
工具、器具及び備品（純額）	22,455	21,978
有形固定資産合計	37,610	38,037
無形固定資産		
ソフトウェア	30,431	36,633
その他	27,416	20,563
無形固定資産合計	57,848	57,196
投資その他の資産		
投資有価証券	167,213	201,811
その他	175,026	176,864
貸倒引当金	△44,697	△44,637
投資その他の資産合計	297,543	334,038
固定資産合計	393,002	429,272
資産合計	4,461,635	4,271,033
負債の部		
流動負債		
買掛金	160,560	106,607
1年内返済予定の長期借入金	122,300	120,000
未払法人税等	42,660	8,223
賞与引当金	59,185	15,978
受注損失引当金	—	2,797
その他	271,483	337,329
流動負債合計	656,189	590,935
固定負債		
長期借入金	480,000	440,000
退職給付引当金	443,215	439,426
資産除去債務	2,161	2,001
長期未払金	209,959	209,496
その他	33	—
固定負債合計	1,135,370	1,090,924
負債合計	1,791,559	1,681,860

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,239,480	1,239,480
資本剰余金	973,222	973,222
利益剰余金	471,604	390,117
自己株式	△32,271	△32,271
株主資本合計	2,652,036	2,570,548
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,139	18,624
評価・換算差額等合計	17,139	18,624
新株予約権	900	—
純資産合計	2,670,075	2,589,173
負債純資産合計	4,461,635	4,271,033

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
売上高	597,395	654,444
売上原価	515,868	531,415
売上総利益	81,527	123,028
販売費及び一般管理費	158,714	178,978
営業損失(△)	△77,187	△55,949
営業外収益		
受取利息	7	7
受取配当金	380	2,155
為替差益	1,009	—
受取補償金	—	1,044
その他	120	367
営業外収益合計	1,517	3,575
営業外費用		
支払利息	147	699
為替差損	—	1,323
営業外費用合計	147	2,023
経常損失(△)	△75,816	△54,398
特別利益		
新株予約権戻入益	—	900
資産除去債務戻入益	—	553
特別利益合計	—	1,453
特別損失		
固定資産除却損	2	0
特別損失合計	2	0
税引前四半期純損失(△)	△75,818	△52,945
法人税等	1,752	2,113
四半期純損失(△)	△77,571	△55,058

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失 (△)	△75,818	△52,945
減価償却費	7,659	8,077
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	114	2,797
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	3,327	△3,788
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△32,300	△43,206
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3,753	△185
受取利息及び受取配当金	△387	△2,163
支払利息	147	669
受取補償金	-	△1,044
為替差損益 (△は益)	△1,032	1,388
有形固定資産除却損	2	0
資産除去債務戻入益	-	△553
新株予約権戻入益	-	△900
売上債権の増減額 (△は増加)	346,009	315,325
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△96,814	△75,017
仕入債務の増減額 (△は減少)	△22,660	△53,953
その他	98,577	67,628
小計	230,577	162,132
利息及び配当金の受取額	388	2,163
利息の支払額	△109	△1,104
補償金の受取額	-	1,044
法人税等の支払額	△4,718	△24,987
営業活動によるキャッシュ・フロー	226,136	139,247
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△785	△4,749
無形固定資産の取得による支出	△5,057	△4,306
投資有価証券の取得による支出	-	△32,949
差入保証金の差入による支出	-	△4,009
差入保証金の回収による収入	-	1,970
その他	△694	△649
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,537	△44,693
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△36,000	-
長期借入金の返済による支出	△7,750	△42,300
自己株式の売却による収入	169,432	-
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△446	△297
株式の発行による収入	933,300	-
配当金の支払額	△18,615	△24,095
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,039,920	△66,692
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,032	△776
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,260,552	27,084
現金及び現金同等物の期首残高	1,581,944	3,250,850
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,842,496	3,277,934

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	エンタープライズソ リューション事業	IoTインテグレーシ ョン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	412,415	184,980	597,395	—	597,395
セグメント間の内部 売上高又は振替高	350	40	390	△390	—
計	412,766	185,020	597,786	△390	597,395
セグメント利益又は 損失(△)	62,857	△31,459	31,397	△108,585	△77,187

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△108,585千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	エンタープライズソ リューション事業	IoTインテグレーシ ョン事業			
売上高					
外部顧客への売上高	426,382	228,062	654,444	—	654,444
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,320	4	1,324	△1,324	—
計	427,702	228,066	655,768	△1,324	654,444
セグメント利益又は 損失(△)	82,088	△23,161	58,927	△114,876	△55,949

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△114,876千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。